

④ 城下町の寺院と神社

江戸時代には「寺院法度」^{ほっと}がだされて、江戸幕府が寺院を支配するしくみとなりました。

三春の城下町には、たくさんの寺院がありましたが、今は、田村氏のぼだい寺であった福聚寺、秋田氏のぼだい寺である高乾院、龍穩院のほか、天沢寺、州伝寺、光岩寺、紫雲寺、真照寺、法華寺、法蔵寺、光善寺などの寺院があり、いずれも由緒ある寺とされています。

三春藩の領地には、このほか90のお寺がありました。

○ ^{こうけんいん}高乾院

藩主秋田氏の一家代々を^{くよう}供養するぼだい寺として、秋田から宍戸（茨城県友部町）をへて、三春町に移されたお寺です。

江戸時代には学問寺として知られ、全国から修行僧が集まりました。

本堂は大正9年にとりこわされて、仮本堂が建てられていますが、まわりに、大きな土台石や手洗いばちが残されていて、当時のようすがしのべれます。

石だんをのぼりつけた高いところに、秋田氏のお墓があります。

○ ^{りゅうおんいん}龍穩院

高乾院とともに、宍戸から三春城下に移された秋田氏のぼだい寺です。

現在の建物は、天明の大火によって焼けたあと、再建されたものです。

本堂の奥に秋田氏の尊霊塔があります。